

試料・情報の提供に関する情報公開について

当院では、下記の研究または調査等の意義に賛同し、当院で保管する試料や診療情報を提供しております。当院を含む多くの医療機関が協力することで、研究の質が向上し、今後の医療の発展につながることが期待されます。

対象者に該当する方で、試料・情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、外部への提供はしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究や調査等の詳細についてお知りになりたい場合も、下記の問い合わせ先にご連絡ください。他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内での開示となります。

研究調査等名称	非切除遠位悪性胆道狭窄に対するフレアなし全カバー付き自己拡張型金属ステント留置に関する後ろ向き多機関共同観察研究
研究調査等主体	横浜市立大学附属市民総合センター 消化器病センター 杉森 一哉
対象となる疾患名等	膵臓癌や胆管癌などの悪性腫瘍による胆道狭窄に対して、フレアなし全カバー付き自己拡張型金属ステントの留置を受けた方
情報の利用目的	悪性胆管狭窄のうち遠位側胆管狭窄に対する胆道ドレナージには、腫瘍のステント内腔への浸潤を予防でき、必要時に抜去することが可能とするためにステント全体をカバーで被覆した全カバー付き自己拡張型金属ステントが広く用いられています。さらに、逸脱予防のためにその両端にフレア構造を持たせたものを、その遠位端が十二指腸内となるように留置する方法で行われていますが、十二指腸内容物のステント内への逆流によって胆管炎を合併することがあり、逸脱防止用のフレア部が胆管壁に食い込み必要時にステントを抜去できなくなるなどの問題点がありました。近年、両端にフレア構造を持たない全カバー付き自己拡張型金属ステントが開発され、これら問題点の解決が期待されています。海外からはこのフレアなし全カバー付き自己拡張型金属ステントの有用性や安全性を少数の症例で評価した報告がありますが、わが国からの報告は未だありません。今回、フレアなし全カバー付き自己拡張型金属ステントを非切除遠位悪性胆道狭窄に留置した症例のデータを多施設で集め、解析を行い、本ステントの有用性、安全性を評価することで今後の医療に役立てたいと考えています。
提供するもの	☐ 試料（保存検体等） ☒ 情報（診療情報等）

提供するもの (詳細)	背景情報：年齢、性別、胆管狭窄を来した原疾患、体調（パフォーマンス・ステータス） 手術情報：留置したフレアなし全カバー付き自己拡張型ステントの規格、胆管狭窄の位置と長さ、合併症、再発性胆管閉塞の有無とステント再発性胆管閉塞までの期間、再発性胆管閉塞時に行った治療等 血液検査：総ビリルビン値 転 帰
提供方法	USB等の記録メディアにパスワードをかけた状態で保存し、研究代表機関へ追跡可能な方法で郵送する、または、パスワードをかけたファイルをe-mailで送信します。
個人情報の保護	個人を特定できる情報を削除して識別番号を付した状態で取扱います。対象者個人と識別番号との対応表は院内で厳重に管理し、その照合は当院内のみ可能となります。また、個人を特定できる情報を外部に提供することはありません。
お問い合わせ	●横浜市立大学市民総合医療センター 電話 045-261-5656（代表） 消化器病センター 杉森 一哉（研究責任者） 金子 卓（研究事務局） ●一般財団法人神奈川県警友会 けいゆう病院 電話 045-221-8181（代表） 消化器内科 香川 幸一